

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績概況（連結）

平成 16 年 2 月 13 日

上場会社名 明治製菓株式会社

（コード番号：2202 東証第 1 部）

(URL <http://www.meiji.co.jp>)

代表者 役職名 代表取締役 社長 氏名 佐藤 尚忠

問合せ先責任者 役職名 広報部長 氏名 田端三郎司 TEL(03)3272-6511

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無

方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

・持分法（除外）1社

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期の業績概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）

(1) 売上高 (注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示してあります

	百万円	%
平成 16 年 3 月期第 3 四半期	271,083	
平成 15 年 3 月期第 3 四半期		
(参考) 平成 15 年 3 月期	353,453	

(注) 前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載しておりません。

パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示しておりますが、前年同四半期決算を行っていないため記載しておりません。

[売上高に関する補足説明]

当第 3 四半期累計の売上高は 2,710 億 83 百万円となり、ほぼ計画どおりに推移しております。主なセグメント別の状況は次のとおりです。

食料事業

消費者のニーズとトレンドを先取りした商品開発とブランド別トータルマーケティングの展開により、売上の拡大に努めました結果、当第 3 四半期累計の売上高は 1,756 億 5 百万円となりました。

菓子におきましては、依然厳しい事業環境が続いておりますが、チョコレートは、11月に主力の「ミルクチョコレート」のグレードアップを始め、12月には新商品「カシューナッツチョコ」を発売して、順調に推移しました。

また、ガムは「キシリッシュ」のボトルタイプのエリア拡大と既存品の露出強化を図り、大幅に伸長しました。

食品におきましては、ココアは健康効果が引き続き消費者に支持され、加えて大型商品の「テオプロ」を発売し、好調に推移しました。

薬品事業

主力製品を中心に着実な学術普及活動と積極的な営業活動を展開しました結果、当第 3 四半期累計の売上高は 788 億 6 百万円となりました。

医療用医薬品の分野は、引き続き医療費抑制策による厳しい市場環境の中、主力の抗菌剤では「メイアクト」「オメガシン」「スオード」は好調に推移しましたが、「ホスミン」は競争激化により減売を余儀なくされました。中枢神経系製剤では、抗うつ薬「デプロメール」は順調に推移し、抗不安薬「メイラックス」も市場が縮小するなか、堅調に推移しました。

また、生物産業事業ではいもち病予防殺菌剤「オリゼメート」の伸長や、動物薬事業の強化により、売上を大きく伸ばしました。

ヘルスケア事業

ブランドの認知向上とターゲットの拡大を主体としたマーケティング活動を展開した結果、当第3四半期累計の売上高は143億73百万円となりました。

薬局・薬店向け医薬品では、うがい薬を中心とした「イソジン」各種製剤が大きく伸長し、また健康食品では、主力の「ザバス」を始め「ローラ」や「アミノコラーゲン」も好調に推移しました。なお、シニア市場をターゲットにした新ブランド「カラダナビ」シリーズは市場拡大を目指して積極的な普及活動を展開しております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

当第3四半期に持分法適用関連会社「日研化学」(主な事業内容は医薬品の製造と販売)の全株式を売却いたしました。これにより当社企業集団の連結範囲は、当社と連結子会社22社、持分法適用関連会社1社より構成されております。

3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期 (従来予想)	370,000 (370,000)	8,000 (8,000)	100 (1,000)	0.03 (2.60)

(参考)

平成16年3月期の個別業績予想(平成15年4月1日~平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期 (従来予想)	275,000 (275,000)	6,000 (6,000)	1,600 (500)	4.16 (1.30)

[業績予想に関する定性的情報等]

当第3四半期末の業績の動向等を踏まえ、平成15年11月12日の平成16年3月期中間決算発表時に公表した業績予想の連結および個別の当期純利益を、上記のとおり修正いたします。主な理由は次のとおりであります。

昨年11月に持分法適用関連会社「日研化学」の全株式を売却したことに伴い、特別利益23億を計上した結果、個別の当期純利益は11億円増加しております。また、この売却に伴い、連結上は特別利益1億円を計上しており、個別で計上した税金費用を控除した結果、連結の当期純利益は9億円減少しております。

上記の予想は、現時点における事業環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

以 上